

2018年5月11日

上場取引所 東 福

上場会社名 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社  
 コード番号 2579 URL <https://www.ccbj-holdings.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉松 民雄  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務本部 コントローラーズ (氏名) 鶴池 正清 TEL 03-6896-1707  
 シニアグループ統括部長  
 四半期報告書提出予定日 2018年5月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2018年12月期第1四半期の連結業績 (2018年1月1日～2018年3月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年12月期第1四半期	213,828	115.7	3,162	45.9	3,042	56.2	1,530	62.4
2017年12月期第1四半期	99,141	△1.4	2,167	△1.9	1,947	△5.9	942	△1.2

(注) 包括利益 2018年12月期第1四半期 △465百万円 (－%) 2017年12月期第1四半期 1,101百万円 (－%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2018年12月期第1四半期	7.49	—
2017年12月期第1四半期	8.63	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2018年12月期第1四半期	888,897	622,495	70.0
2017年12月期	883,918	627,485	70.9

(参考) 自己資本 2018年12月期第1四半期 622,076百万円 2017年12月期 627,058百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年12月期	—	22.00	—	22.00	44.00
2018年12月期	—	—	—	—	—
2018年12月期 (予想)	—	25.00	—	25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2018年12月期の連結業績予想 (2018年1月1日～2018年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,007,300	15.4	49,700	22.5	47,900	20.2	28,800	14.1	149.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2018年4月に実施した自己株式の取得に伴い、期中平均株式数を見直し、1株当たり当期純利益予想は変更しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2018年12月期 1 Q	206,268,593株	2017年12月期	206,268,593株
② 期末自己株式数	2018年12月期 1 Q	2,018,159株	2017年12月期	2,015,532株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2018年12月期 1 Q	204,251,699株	2017年12月期 1 Q	109,136,375株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって業績予想とは大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項につきましては、[添付資料] 3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

目 次

頁

添付資料

1.	当四半期決算に関する定性的情報	2
(1)	連結経営成績に関する説明	2
(2)	連結財政状態に関する説明	3
(3)	連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2.	四半期連結財務諸表及び主な注記	
(1)	四半期連結貸借対照表	4
(2)	四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
	四半期連結損益計算書	6
	四半期連結包括利益計算書	7
(3)	四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
	(継続企業の前提に関する注記)	8
	(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
	(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
	(追加情報)	8
	(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する説明

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社（以下「当社」）は、2017年6月に発表した中期計画「Growth Roadmap for 2020 & beyond」に基づき、スピード感を持って統合と変革を推進し、持続的成長に向けた基盤確立を進めてまいりました。2018年はこの基盤からのさらなる成長を実現すべく、「地域密着の営業活動とスケールメリットの発揮」、「イノベーションの加速」、「統合シナジー創出」を目指した取り組みを進めております。

当第1四半期連結会計期間（2018年1月1日～3月31日、以下「当第1四半期」）、飲料市場においては2月までは厳しい寒さが続いたものの、3月に入り好天が続いたことや、競争が激化する中で各社の積極的な新製品導入もあり、市場は前年同期比若干増で推移したものと想定されます。健康食品および化粧品市場におきましては、消費者の健康志向やインバウンド需要の継続等により市場の拡大傾向は続いておりますが、消費者ニーズに対応した各社の積極的な製品導入もあり、激しい競争環境は継続しております。

このような環境において、当第1四半期の業績は以下のとおりとなりました。また、2018年5月14日（月）午後1時30分より開催の決算説明会資料を当社ホームページ(<https://www.ccbj-holdings.com/ir/library/presentation.php>)に掲載しておりますので、本決算短信の定性的情報と併せてご参照ください。

### 当第1四半期 業績のハイライト

- ・ 連結売上高は経営統合の影響により、前年同期比116%増。プロフォーマ比較では、ベンディングチャネルの売上減少によるチャネルミックス悪化や競争激化等により、2%減。
- ・ 飲料事業の販売数量はプロフォーマ比較では前年同期比1%増。金額・市場シェアとも拡大し、金額シェアが数量シェアを上回って成長し、統合来、シェア改善傾向継続。
- ・ 連結営業利益は前年同期比46%増。プロフォーマ比較では、昨年の経営統合に伴い当第1四半期ののれん等償却費用約14億円が増加したこと等により14%減となるも、のれん等償却費用の影響を控除すれば増益。
- ・ 主にサプライチェーン、調達から40億円のシナジー(ネット)を創出。通期での創出目標80億円に対し順調な進捗。
- ・ 株主価値向上に向けた施策の実行：自己株式（発行済株式総数の8.28%）の公開買付けを実施。また、新たな配当方針を策定し、さらに取締役および執行役員を対象とした業績連動型株式報酬制度を導入。
- ・ 組織・子会社の簡素化と再編を継続。グループ法人数は経営統合時の25社から2018年4月1日時点で14社に減少。

\*プロフォーマ：2017年1月1日に経営統合したと仮定し、前第1四半期の実績を当第1四半期と同様の基準で見積もったもの。

### 業績の概要

(単位：百万円)

	2017年 第1四半期 (1-3月)	2018年 第1四半期 (1-3月)	増減率
売上高	99,141	213,828	+115.7%
営業利益	2,167	3,162	+45.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益	942	1,530	+62.4%

\*2017年第1四半期は経営統合前のコカ・コーラウエスト株式会社の業績。

当第1四半期の連結売上高は213,828百万円（前年同期比114,686百万円、116%増）となりました。飲料事業では、2017年4月1日を効力発生日としたコカ・コーラウエスト株式会社とコカ・コーライーストジャパン株式会社の経営統合の影響等により、売上高は206,588百万円（前年同期比114,943百万円、125%増）となりました。ヘルスケア・スキンケア事業は、前年度に導入した新製品の貢献があったものの、主要商品の売上減少により、売上高は7,240百万円（前年同期比257百万円、3%減）となりました。

当第1四半期の連結営業利益は3,162百万円（前年同期比995百万円、46%増）となりました。飲料事業では、前述の経営統合の影響等により、営業利益は2,272百万円（前年同期比951百万円、72%増）となりました。ヘルスケア・スキンケア事業では、販促時期の見極め等により、営業利益は890百万円（前年同期比43百万円、5%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は営業利益の増加により、1,530百万円（前年同期比588百万円、62%増）となりました。

(参考) プロフォーマ業績の概要

2017年1月1日に経営統合したと仮定し、前第1四半期の実績を当第1四半期と同様の基準で見積もった、プロフォーマ業績は次のとおりであります。

(単位：百万円、販売数量を除く)

	2017年 第1四半期 (1-3月)	2018年 第1四半期 (1-3月)	増減率
売上高	218,081	213,828	△2%
営業利益	3,690	3,162	△14%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,498	1,530	+2%
飲料事業 販売数量 (百万ケース)	110	111	+1%

当第1四半期の連結売上高はプロフォーマ比較で4,253百万円、2%減となりました。飲料事業の販売数量は前年同期比1%増となり、金額・数量シェアとも改善が続きましたが、収益性の高いベンディングチャンネルの販売数量の減少、価格競争激化によるミックス悪化等により、飲料事業の売上高は減少しました。営業利益は、前期の会計方針変更影響の反動による減価償却費の減少等があったものの、経営統合によるのれん等償却費用の発生や販促費(DME)の増加等により、プロフォーマ比較で528百万円、14%減となりました。なお、のれん等償却費用の影響を除外すると、プロフォーマ比較で営業利益は増加しました。親会社株主に帰属する四半期純利益はプロフォーマ比較で31百万円、2%増となりました。

飲料事業における販売チャンネル別の販売数量(増減率は前年同期比)は、スーパーマーケット、ドラッグストア・量販店、コンビニエンスストア(CVS)等の手売りチャンネルが成長をけん引しました。スーパーマーケットチャンネルは炭酸、無糖茶、水カテゴリー等の成長により6%増、ドラッグストア・量販店チャンネルは多くの製品カテゴリーで成長し12%増、CVSチャンネルは炭酸、無糖茶カテゴリー等の成長により3%増となりました。ベンディングチャンネルは、炭酸、無糖茶、スポーツカテゴリーが成長したものの、市場全体が軟調に推移した影響や主力のコーヒーの減少等により6%減となりました。

製品カテゴリー別では、炭酸および無糖茶において、「コカ・コーラ ピーチ」、「ザ・タンサン・ストロング」、「ザ・タンサン・レモン」、「綾鷹 茶葉のあまみ」等の新製品が好調に推移し、両カテゴリーとも主要販売チャンネルで増加し、いずれも6%増となりました。スポーツドリンクは平昌冬季オリンピックキャンペーン等もありドラッグストア・量販店、CVS、ベンディングチャンネルで回復し4%増となりました。コーヒーはお得意さま専用製品等によりCVSチャンネルで前年同期並となったものの、主力のベンディングチャンネルの軟調が続いたことから7%減となりました。水は前年に導入した新製品の反動減や競争激化等により、主にCVSとベンディングチャンネルで減少し3%減となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

総資産は、888,897百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,978百万円増加しました。これは主に、2月に発表した自己株式の公開買付けの実施に備えた、現金及び預金の増加等によるものです。

負債は、266,402百万円となり、前連結会計年度末に比べ9,969百万円増加しました。これは主に、買掛金が増加したことや、公開買付けの実施に備え短期借入金が増加したこと等によるものです。

純資産は、622,495百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,990百万円減少しました。これは主に、期末配当金の支払いによる利益剰余金の減少、その他有価証券評価差額金および繰延ヘッジ損益の減少等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年12月期通期の業績予想につきましては、2018年2月13日に公表いたしました業績予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	101,858	127,034
受取手形及び売掛金	69,266	69,576
有価証券	17,000	—
商品及び製品	54,357	52,727
仕掛品	267	564
原材料及び貯蔵品	7,323	9,845
その他	36,277	37,849
貸倒引当金	△376	△346
流動資産合計	285,974	297,251
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	73,145	72,292
機械装置及び運搬具（純額）	67,382	65,498
販売機器（純額）	111,800	112,419
土地	151,375	151,312
建設仮勘定	591	311
その他（純額）	5,897	5,649
有形固定資産合計	410,192	407,485
無形固定資産		
のれん	76,557	75,426
契約関連無形資産	50,098	49,447
その他	14,437	13,960
無形固定資産合計	141,092	138,834
投資その他の資産		
投資有価証券	31,792	30,381
退職給付に係る資産	257	268
その他	15,567	15,610
貸倒引当金	△958	△935
投資その他の資産合計	46,659	45,325
固定資産合計	597,944	591,645
資産合計	883,918	888,897

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	40,496	47,754
短期借入金	—	17,000
1年内返済予定の長期借入金	1,817	1,747
未払法人税等	8,356	1,094
未払金	55,410	52,098
販売促進引当金	427	462
賞与引当金	2,521	3,058
役員賞与引当金	134	28
その他	17,193	15,244
流動負債合計	126,357	138,488
固定負債		
社債	66,000	66,000
長期借入金	12,031	11,308
退職給付に係る負債	20,358	19,757
業績連動報酬引当金	—	38
役員退職慰労引当金	30	29
環境対策引当金	90	90
その他	31,563	30,687
固定負債合計	130,075	127,913
負債合計	256,432	266,402
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	15,231	15,231
資本剰余金	450,568	450,568
利益剰余金	155,535	152,572
自己株式	△4,692	△4,703
株主資本合計	616,642	613,668
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,886	5,907
繰延ヘッジ損益	590	△507
為替換算調整勘定	12	11
退職給付に係る調整累計額	2,926	2,995
その他の包括利益累計額合計	10,416	8,407
非支配株主持分	426	418
純資産合計	627,485	622,495
負債純資産合計	883,918	888,897

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)
売上高	99,141	213,828
売上原価	47,179	103,317
売上総利益	51,962	110,511
販売費及び一般管理費	49,794	107,348
営業利益	2,167	3,162
営業外収益		
受取利息	10	1
受取配当金	18	24
持分法による投資利益	40	—
不動産賃貸料	29	102
有価物売却益	12	133
その他	94	181
営業外収益合計	204	443
営業外費用		
支払利息	113	136
持分法による投資損失	—	1
固定資産除却損	134	314
その他	176	110
営業外費用合計	424	563
経常利益	1,947	3,042
特別利益		
固定資産売却益	42	—
投資有価証券売却益	16	0
特別利益合計	59	0
特別損失		
経営統合関連費用	536	—
特別損失合計	536	—
税金等調整前四半期純利益	1,470	3,042
法人税、住民税及び事業税	663	1,149
法人税等調整額	△150	350
法人税等合計	513	1,499
四半期純利益	956	1,542
非支配株主に帰属する四半期純利益	14	12
親会社株主に帰属する四半期純利益	942	1,530



(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)
四半期純利益	956	1,542
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	△979
繰延ヘッジ損益	—	△1,097
為替換算調整勘定	22	△0
退職給付に係る調整額	127	71
持分法適用会社に対する持分相当額	△5	△2
その他の包括利益合計	144	△2,008
四半期包括利益	1,101	△465
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,086	△478
非支配株主に係る四半期包括利益	14	12

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(追加情報)

(表示方法の変更)

(四半期連結損益計算書)

前第1四半期連結累計期間において、「営業外収益」の「その他」に含めて表示しておりました「不動産賃貸料」および「有価物売却益」は、金額的重要性が増したため、当第1四半期連結累計期間より区分掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前第1四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた135百万円は、「不動産賃貸料」29百万円、「有価物売却益」12百万円、「その他」94百万円として組替えしております。

(セグメント情報等)

前第1四半期連結累計期間(自 2017年1月1日 至 2017年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	飲料事業	ヘルスケア・スキンケア事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	91,644	7,497	99,141
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	91,644	7,497	99,141
セグメント利益	1,320	846	2,167

(注) 売上高およびセグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上高および営業利益とそれぞれ一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	飲料事業	ヘルスケア・スキンケア事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	206,588	7,240	213,828
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	206,588	7,240	213,828
セグメント利益	2,272	890	3,162

(注) 売上高およびセグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上高および営業利益とそれぞれ一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント名称の変更)

当第1四半期連結会計期間より、事業内容をより適正に表示するため、従来の「清涼飲料事業」のセグメント名称を「飲料事業」に変更しております。

なお、セグメント名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。